



宮城県 株式会社 ケイセン
「震災復興支援少年野球大会の開催」事業



株式会社 ケイセン
代表取締役社長
琴 吉成さん



株式会社 ケイセン
専務取締役
琴 鎬龍さん

選考理由

社会貢献活動審査委員会
委員
永井多恵子氏



東日本大震災で大きな被害を受けた石巻市、東松島市の人々を元気づけようと地元の少年野球(小学生)16チームによる野球大会を開催、組合員自ら、企画、野球場の借用、事前PRなどすべて引き受け、参加した親子をはじめ地元の人々を激励した。

また、24年3月にセンバツ高校野球大会に出場した石巻工業高校へ協賛金を贈呈したのをはじめ、多額の災害復旧寄付金を贈るなど一連の活動で被災地域を盛り上げたことは高く評価できる。

地元の野球少年の夢をかなえる
手作りの野球大会を開催

震災からの復興を願って少年野球大会を再開できること、身近なこと、求められることから始めるのが地域における社会貢献活動の第一歩だが、それを実践しているのが、「大將軍」のホール名で宮城県内に10店舗(うち2店はグループ店)を展開するケイセンである。ケイセンの従業員のなかに少年野球チームの関係者がいたこともあり、地元の子どもたちや少年野球チームの監督などから野球大会を開いてほしいという要望があった。これに応じて2009年9月に第1回目となる「ケイセンカップ・ラジオ石巻少年野球大会」を開催した。

「当社の会社理念として、『地域の皆様と共に成長する企業』を掲げていますが、地域貢献として何ができるかを考えるなかで、将来を担う子どもたちに目を向け、野球を通じて青少年の健全育成に寄与できればと思い、少年野球大会を開催することにしました。なお、ラジオ石巻はコミュニティFM局ですが、地域密着という理念が当社と共通するので、大会の趣旨をお話ししたところ、共感していただき、両社共催ということになりました」と、専務取締役の琴鎬龍さんは語る。第1回目の大会には、石巻市と東松島市を中心に26チームが参加し、2日間にわたって熱戦を繰り広げたという。翌年も第2回大会を開催したが、第3回目となるはずだった2011年は、東日本大震災のため、残念ながら中止となった。

昨年、大震災からの復興を支援し、被災地を盛り上げる意味も込めて、第3回大会として再開することができたという。「今年はどうするのかという問い合わせが結構あり、期待されているのがわかりました。ただし会場の都合もあり、1日しか借りることができなかったため、16チームとやや規模が小さくなりましたが、参加した子どもたちにも、応援の父兄の方々にも喜んでいただけたようです」と、総括部長の中山茂さんは語る。

手作りの大会運営で自分たちも成長する

「このような大会を開いていただき、本当にありがとう



第3回「ケイセンカップ・ラジオ石巻少年野球大会」の様子



参加した子どもたちにとっては、震災の影響で大会数が減るなか、貴重な大会となった



会場の確保や事前PR、そして当日のグラウンド整備など、大会の準備から運営までケイセングループが行っている



センバツ高校野球に21世紀枠で出場した石巻工業高校に対して、協賛金を贈呈した

ございます。大きなカップを毎年獲得できるよう、一生懸命がんばります」という昨年の大会に参加した児童からの声や「ケイセンの大会はマイクアナウンス、審判などもしっかりしているので、親も試合に集中して応援することができ、ありがたく思っています。また、プロ野球選手からの応援メッセージや数多くのグッズなども提供していただきました。東日本大震災の影響で使用できる球場が少ないなか、このような大会を開いてくださったことに感謝しています」という保護者からのコメントに、この少年野球大会の意義が凝縮されている。

この大会は運営をどこかに任せるのではなく、ケイセングループの社員たちが自ら動いて行う、まさに手作りの大会でもある。6月頃に各ホールや本社から各3~4名の大会実行委員会メンバーが選ばれ、参加チームの監督などとも協力しながら、野球場の確保や審判団の手配、事前PR、当日の開閉会式や表彰式、グラウンド整備など、すべてを大会実行委員会が行い、選手の名前を読み上げ

る場内アナウンスも女性スタッフが担っている。昨年の大会では、センバツ高校野球に21世紀枠で出場した石巻工業高校のバッテリーが始球式を行い、またケイセンのグループ企業役員と交友があった岩隈久志投手(元楽天・現マリナーズ)を通じてサイン入りボールや楽天選手が実際に使用したグローブやジャンパーなどがプレゼントとして届けられた。

「迫力ある大会で、将来有望な選手も多い。運営は大変ですが、充実感があるし、こうした活動を通じ、自分たち自身が成長していければいいと考えています」と、琴専務。中山総括部長は、「将来的には宮城県全域の子どもたちが参加できる大会にしていきたい。今はそのための準備大会と捉え、継続していきたい」と話す。このほかにも、ケイセングループではホールのある市町でのスポーツ大会やお祭り、清掃や花壇作りなどの町内会行事などに積極的に参加し、地域に愛される企業として歩んでいくことをモットーとしている。